



発行日 2011年1月10日 発行人 細川正善

編集責任者 太田賢孝 事務局長 亀野哲也

発行所 SOTO禅インターナショナル事務局 〒233-0012 神奈川県横浜市港南区上永谷5-1-3 貞昌院内

Tel. 045-843-8852 Fax. 045-843-8864 URL: <http://www.soto-zen.net/>

郵便振替 00100-6-611195 SOTO禅インターナショナル

Vol.45

ブラジルローランジャ佛心寺50周年特集号



ローランジャ佛心寺50周年記念法要にて

巻頭

日系寺院史編纂への思い

S Z I 相談役 福島伸悦 (埼玉県長光寺住職)



過日、橋田壽賀子さんが脚本した「99年の愛～JAPANESE AMERICANS～」が5夜連続でテレビ放映され、大変反響がありました。1世紀前、アメリカに渡った日系一世移

民とアメリカの地で生まれ育った二世の家族が、人種差別や戦争によって逆境や苦難を乗り越えて生き抜く」といった家族の「愛の物語」です。

日系寺院の歴史は、まさに日系移民の歴史とともに歩んだ道そのものです。戦争によってすべての財産や土地を没収された日系人の心の支えはお寺だったのです。寺院は、異国の地で、同朋が集う大事な場所であり、自分たちのアイデンティティーを確かめる場でもありました。

18年前、S Z I 会報の創刊号の表紙を飾ったのは、1941年12月7日、日米開戦とともにアリゾナ州ニューメキシコのサンタフェ収容所に強制収容させられた開教師（当時の呼称）の先達諸尊宿の貴重な集合写真でした。私達は、これらの方々の労苦、偉業を決して忘れてはなりません。今日日系寺院のみで

なく日系人以外の現地の人たちに曹洞禅が受け入れられています。そして、現在、ハワイ、北米、南米、ヨーロッパ、オーストラリア、アジアと宗門寺院が約90カ寺にも及んでいます。

時代の流れとともに宗門は、国際布教に大変力を入れ、さまざまな諸問題に対して規定整備をし、物心両面のサポートをして新たな展開を図ってきました。国際布教に力を入れるという事は、とりまなおさず国内の布教を考えるという事でもあります。実際に21世紀の寺院運営を考える場合、日系寺院あるいは禅センターは、ある意味でアンテナショップ的役割を果たしています。

S Z I は創立15周年に海外寺院ガイドブックを教化部国際課の協力によって発刊すると同時に、宗門にとって海外伝道史の編纂は必要不可欠であることを説いてまいりました。今私達に出来ることは何だろうと考えた時、国際布教の礎を築いた日系寺院の伝道史を編纂する事の重要性を改めて認識した次第です。現在、資料収集し編纂作業に入っておりますが、これらの事業にご理解を頂き、なお一層のご支援ご協力のほどお願い申し上げます。

特集1 ブラジルローランジャ佛心寺50周年

赤土と黄風舞う50年の甦り

ーローランジャ洞光山佛心寺開山50周年記念ー

ローランジャ佛心寺住職 黒澤慈典

今から丁度50年前の1960年10月9、10日の2日間に渡り、当地ブラジル連邦共和国パラナ州ローランジャにて、当山ローランジャ洞光山佛心寺の盛大なる落慶入仏法要が営まれました。

まずは当山の概要でございますが、ブラジルのパラナ州、有名なフォス・ド・イグアスがある同じ州にございます。サンパウロより丁度真西へ600キロ程に位置いたしますローランジャという市にございます。当地は元々ドイツ系の移民が多く入植し、更にコーヒーの産地として戦前より日本人の移民も多く、現在でも多くの日系人はコーヒーを初めとする農業に従事する人々も少なくありません。

当山ローランジャ洞光山佛心寺建立に至るに当たり、1955年9月、当時の宗務総長佐々木泰翁師、高階瓏仙管長猥下によるパラナ州御巡錫に先行し、当時ローランジャ在住であった多くの曹洞宗檀信徒らが一体となり御巡錫をお迎えしました。その際にはローランジャ市内の映画館において管長高階猥下御親修のもと、開拓先駆者追悼法要が厳修され、当地には曹洞宗檀信徒が多数在住されていた事を機に、パラナ州にて初めての寺院建設を願いたいとの管長猥下がお言葉を述べられました。

このように、高階瓏仙管長猥下の御来錫が機縁となり、1957年5月に初代南米開教総監（現呼称南アメリカ国際布教総監）新宮良範師赴任を機に、1958年11月に当地ローランジャ市のカフェザール地区飯塚弥十氏宅の一部を礼拝所とし、初代駐在開教師として八杉智鑑師の赴任を機に宗門のパラナ州初の開教がスタートしたわけでございます。しかし、それも束の間、諸般の事情で八杉師はサンパウロの別院へ戻られ、その翌年1959年1月、新宮良範総監の英断にて吉田道彦師がローランジャに赴任し、更にこの年の3月1日にはローランジャ曹洞宗役員会が結成され、1960年2月には建築委員会が結成され同じ年の10月9、10日の2日間に渡り、最初に述べた通りに本堂、庫裡が落慶し盛大な入仏式が執り行われたのでございます。時の管長高階瓏仙管長猥下を御開山と仰ぎ、ここにローランジャ洞光山佛心寺の誕生いたしましたわけです。

それから50年の歳月が経ち、途中期間には僧侶不在の時期が長く続いた時期もあり、一部の宗門檀信徒との距離が疎遠となるなど、また更には境内大部分の建物は老朽化が進行し、今回50周年の機縁にお寺を新しく甦らせようと、当山護持会役員一体となり今回記念事業の準備に取り掛かってまいりました。

そんな中で、今回当山50周年に当たっての事業は、境内の大々的な整備を主に以下のとおり行ってまいりました。

- ・新しい境内東司の新築
- ・庫裡の建替え
- ・新しいサロンの建替え（檀信徒会館）
- ・ローランジャ市役所から当山開創吉田道彦大和尚記念碑を寄贈頂く
- ・本堂の内壁、外壁の塗り替え
- ・境内空き地部分に芝生を植える

・私自身の著書で全て葡語による記念誌の作成（日本語からの翻訳文ではなく自身で葡語にて著作）

・友人である歌手の吉武まつ子様グループ御一同（グループ「ESCOLTA」のボーカル吉武大地様、ピアニスト小林力様、ソプラノ歌手吉武萌様、また吉武まつ子氏の恩師である松下和子様以上5名の方々にお越し頂きました。）によるコンサート

そして、50年後の本年度2010年当山は開創50周年を迎え、先般9月24日（金）～10月18日（月）の期間にて記念行事を行いました。上記の建物の落慶式等を既に9月24日に執り行い、ここでは今回行事のメインとなった、10月9、10日の2日間に渡って執り行われました式典について述べさせていただきます。

丁度50年前に執り行われた落慶、入仏式と全く同じ日である10月9、10日の2日間に於き、地元は勿論、サンパウロやその他ブラジル各地、日本からも多くの参拝者が臨席し、南アメリカ国際布教師、南米で活動する宗侶、当山開創2世である故吉田道彦大和尚の自坊である宮城県洞林寺の参拝団、特派布教師の御随喜のもと盛大に50周年記念式典が修行されました。

まず10月8日（金）の晩には、今回の行事参加者一同の顔合わせ要素を踏まえ、丁度、当地ローランジャではドイツ系移民によるビール祭り、「オクトバーフェスト」が開催されており、参加者皆会場にお集まり頂き懇談会を行いました。ただ、会場内が大音量にて音楽生演奏を行っており、お互い会話が困難な状況となってしまった事が禍根であったように今更ながら思っております。

10月9日（土）には当地パラナ州ローランジャ市役所より、当山境内の位置する向かいの広場に小さな日本風の庭園を整備して頂き、当山開創吉田道彦大和尚による揮毫された記念碑を贈呈頂き、その除幕式を行いました。当日、市長は多忙につき副市長による挨拶の下、私の挨拶に続き私の友人であるシンガーの吉武まつ子様に歌（歌名は忘れてしまいましたが、記念、思い出に相応しい歌です。）を披露して頂き除幕を行いました。

続いて、本堂にて宮城県洞林寺住職吉田俊英老師による導師のもと開山歴住諷経を修行し、了而今回新しく改築したサロンにてローランジャ文化スポーツ協会婦人会により準備された昼食をご馳走になりました。

この日の午後は各自ローランジャ市内の見物等して頂き、午後19時より先述した私の友人である埼玉県さいたま市在住のシンガー吉武まつ子様グループ御一同によるローランジャ市役所後援の下、当市市民会館にて当山50周年記念コンサートを執り行い、地元日系の方々のみならず、多くの非日系の方々もご来場頂き幅広いジャンルの歌を披露して頂き大変盛り上がったコンサートとなりました。

翌日10月10日（日）は、午後14時より打ち出し、私が導師を勤

め檀信徒総回向、続いて特派布教師の北海道葉王寺住職田中清元老師による法話、それから、采川道昭南アメリカ国際布教総監導師による当山50周年慶祝法要を厳修し、了而、今回新しく建替えた新しい庫裡の前にて全員で記念撮影、その後は当山本堂内にて友人の吉武まつ子様グループ御一同による歌のコンサートを行って頂き、丁度、日が落ちた頃、境内広場にて地元ローランジャ太鼓グループ勇和太鼓の演奏を披露、午後19時半より今回新しく建直されたサロンにて晩餐会を行いました。全部で80名近くの参拝者が訪れられ皆様全てが大喜びして頂き、大盛会となりました。

今回の50周年を機に、境内の景観は大きく変化し地元の方々より以前よりも増してお寺に対して親しみを持たれるようになったと感じております。私が就任する2004年までは長い期間住職不在の時期が続き、地元日系の方々による努力により護

持されてまいりました。今日に至るまで、当山の護持に関わった方々の垂延だったとも言える、新しい建物の建設、境内の整備に関する予算は全てブラジル国内にて賄われました。お陰様で当地域の多くの方々のご協力により、こうして無事に50周年を迎えられました。

新しく生まれ変わったローランジャ洞光山佛心寺で、また、かつての50年前の記憶が甦るが如く、当地域の方々に仏法の灯が満たされるように今後の布教活動がより一層重要な意味を持つように思います。

末筆ながら、当山50周年記念事業の為に多大なる御協力を賜りました、当パラナ地域を始めブラジル各地の檀信徒の方々、総監部、国際布教師をはじめとする宗侶の皆様、遠路より日本よりご参詣くださいました僧侶の方々、皆様に心より感謝を致しております。



吉田道彦和尚記念碑除幕式



50周年慶祝法要



新庫裡前にて全員で記念撮影

特集1 ブラジルローランジャ佛心寺50周年

ブラジル ローランジャ佛心寺50周年に思うこと

宮城県洞林寺住職 吉田 俊 英

1、曹洞宗のブラジル開教とローランジャ佛心寺

1960年10月10日、ブラジルのパラナ州ローランジャ市で洞光山佛心寺の落慶法要が行われました。パラナ州最初の仏教寺院です。前年から吉田道彦和尚（仙台市の洞林寺前住職、1984年遷化）は曹洞宗海外開教師としてローランジャ市に赴任しパラナ州一帯の布教に励んでおりました。道彦和尚の努力と仏教に思いを寄せるローランジャ市の、そしてパラナ州の日系人の熱意が実を結んだ日でした。ブラジルの曹洞宗寺院として、1955年開創のモジダスクルーゼス市の禅源寺、1956年開創のサンパウロの曹洞宗両大本山別院南米総監部（祥嶽山佛心寺）に次ぐものです。御開山に高階瓏仙禪師を勧請しております。

2010年10月、佛心寺は50周年を迎えました。この50年の歩みは決して順風満帆なものではありません。吉田道彦和尚は本師の健康上の事情もあって1960年10月に10周年法要を勤めてから日本に帰国いたしました。その後の40年間で、正式に駐在した開教師・国際布教師は中村良忍師、佐藤鴻舟師、そして現在の御住職黒澤慈典師の3名だけであり、住職不在の期間の方が長かったのです。また、赴任された方々も前任者とのブランクがある状態で赴任されたため御苦勞も多かったと思います。

サンパウロの曹洞宗南米総監部にしても、初代総監の新宮良範老師遷化後、青木俊亨老師、森山大行老師、三好晃一老師が

就任されていますが、後任を決めるまで毎回ブランクがあったことは、残念なことです。また、総監部創立時から1970年代初めごろまではある程度の人数の開教師が派遣されましたが、その後はあまり開教師が派遣されておられません。残念ながら人材養成と人材派遣の面で他の仏教教団に後れをとってきた点は否めないと思います。

ローランジャ佛心寺建立後、同じパラナ州の近隣の大きな街に浄土真宗大谷派、浄土真宗本願寺派、浄土宗の寺が建立されており、これらの寺院にはほとんどブランク無く開教使が派遣駐在していたようです。ハワイ北米でもそうだったと思いますが、ブラジルには日本のような檀家制度はありません。そうになると、必然的に住職不在の寺は不利です。他の寺に移った方々も少なくなかったと思います。

また、海外日系人社会では、いわゆる日系新宗教の存在も無視できません。多くの教団がブラジルに渡っています。生長の家、天理教、創価学会、立正佼成会、世界救世教等々、これらの教団は多くの人員と資金を基にして組織を作り、信者を増やしました。こういう現実、ブラジルに限らず、ハワイ北米の現場におられた方々が痛感してきたことだと思います。

ですから、ローランジャ佛心寺の50年間は、蒔いて出た芽が枯れないで、何とか生き残ってきた50年だったと言えるでしょう。生き残るためには、開教師不在の時期に寺の守った僧侶や信者の方々の努力がありました。そして「自分たちがこの佛心

寺を建てた。自分の親たちがこの佛心寺を建てた。」そういう地域の方々の熱い思いが何とか寺を維持してきました。佛心寺の創立記念日「入佛式」には、地域の日系団体の協力も得てお祭り(フェスタ)を開催し、多くの方々が集まるようになりました。お祭りに出店されるケルメッセ(模擬店)で提供する「すき焼き」と「うどん」の売上げが、佛心寺の貴重な運営資金となってきました。

2、記念法要に参列して

50周年法要参列のための訪問団を企画しましたが、ブラジルは遠く、日数も費用もかかるため、敬遠したり尻込みしたりされる方も少なくありません。当寺の住職寺族等4名のほかに、御住職1名、寺族様の5名の参加を得て、10名の訪問団で記念法要に参列して参りました。

佛心寺も50周年に向けて、庫裡会館の新築、本堂の塗替え等一生懸命準備して来られました。私は10年振りの訪問でしたが、立派に新築された会館や改修された本堂を見て、佛心寺の黒澤住職と護持会観音講の方々が、文協や地域の方々の協力を得て、50周年法要に向けて準備して来られた熱い思いを感じました。



10月9日、佛心寺に隣接するローランジャ市の公園で記念碑の除幕式が行われました。「市に初めて仏教寺院を開いた吉田道彦和尚を顕彰する」記念碑をローランジャ市が建てて下さったのです。記念碑には、二体のこけしと「仲よく、美しく」という言葉が描かれています。道彦和尚が生前描いた絵を石に彫ったもので

す。ザビーネ副市長と母(吉田道彦和尚寺族)の手で除幕しました。母にとっても、佛心寺を支えてきた方々にとっても、感激の瞬間でした。除幕を記念して宮城県の代表的民芸品「鳴子こけし」をローランジャ市に贈呈させていただきました。

除幕式終了後、佛心寺本堂で開山歴住諷経が厳修され、甚だ僭越ではありましたが、私が導師を勤めさせていただきました。法語の最後に、「寺を護り支えて来てくれたローランジャの方々、パラナ州の方々に感謝を込めて、ありがとう」という意味のポルトガル語に翻訳してもらった文章を読み上げさせてもらいました。

翌、10月10日には、黒澤住職による佛心寺檀信徒先祖供養法要、采川南米総監による五十周年記念法要が本堂で行われ、本堂を埋め尽くした大勢の方々が御焼香されました。ブラジル宮城県人会の方々が会長さん始め17名でサンパウロからバスに乗り、御参列いただきました。1957年12月に移民船さんとす丸で道彦和尚と同船者だった方々も来てくださいました。懐かしい方々に参列いただき、きっと道彦和尚も喜んでいただきたいと思います。

3、言語という課題

記念法要の中で、田中清元老師による特派布教法話がありました。田中老師が自らの生い立ちの中で体感してきた北海道

開拓と北海道開教の歴史を、ブラジル移住者の方々の立場に寄り添って、熱く楽しく語って下さいました。参列者の笑い声が本堂に響く特派布教道場でした。当日、本堂に参列したのは日本語を話し理解する日系一世の方々が大部分でした。優れた通訳者も準備されていましたが、今回の場合は取立て通訳の必要はありませんでした。



ブラジル日系移民の歴史は100年を越えました。日系人と言っても、日本語を全く話さず日本文化を知らない方も増えてきています。いずれは現地化していかなければ、ブラジルの仏教寺院の未来は危ういでしょう。そういう日の来る前に、教団として戦略と戦術を練っていくことが急務だと思います。

とは言っても、ハワイ北米と違ってブラジルは40年前50年前に日本から移住してきた方々はまだまだ健在です。日本人中心の入植地で生まれ育ってきた方々、日本語学校や家庭での日本語教育を受けてきた方々の中には、私共以上に立派な日本語を話す方々も多くおられます。現在のローランジャ佛心寺を支えているのは、一世の方々と日本語日本文化を受け継いでいる二世の方々です。ブラジルの公用語はポルトガル語です。日系人中心にやってきたから、日本語だ。いや、これからはポルトガル語だ。あれか、これか、という単純な選択で済む問題ではないでしょう。両者を大事に使い分けて行くことだと思います。

4、再会を約して

10月11日、私達訪問団一行は佛心寺本堂で読経し本尊様開山歴住様にお別れの挨拶をしました。佛心寺観音講の方々が心尽くしのお菓子とお茶コーヒーでもてなして下さいました。「飛行機の中で食べて下さい。」と手作りのお弁当もいただきました。飛行場に向かうバスに乗り込む直前、訪問団の寺族様たちから「ローランジャの方々に本当にお世話になったから、みんなで『報謝御和讃』を唱えましょう。」という声があがり、唱え始めました。観音講の方々も一緒に唱えました。「み篤き今日のおもてなし いかで忘れん諸共」という一節を聞きながら、「ここに佛心がある。ここが佛心寺だ。」そう思いながら、目頭が熱くなりました。

「また。来ます。お元気です。」バスの窓から感謝を込めて精一杯手を振りました。

ローランジャの方々の仏心に出会い、訪問団の方々の仏心に支えられ、法要参列を終え、いくらかはブラジルの風景と文化を楽しみ、無事帰国することが出来ました。今後、先住の遺徳を損することが無いよう、母が繋ぎつづけてきたブラジルの方々との絆を断つことが無いよう、私も弟子も精進したいと思います。

尚、今回の訪問団については、今後、私のブログ「仏事を考える一仙台新寺の曹洞宗洞林寺」<http://blogs.yahoo.co.jp/dorinji>の中で、もう少し詳しく述べさせていただく予定です。よろしかったら、ご覧ください。

特集2 サイパン南溟堂20周年

サイパン南溟堂創立20周年慰霊法要報告

サイパン南溟堂住職 秋 田 新 隆

南溟堂(国際礼拝堂)創立20周年の法要は、去る10月23日(土)午前11時より、日本から120名、マリアナ連邦政府の要人数名の参列を得て、サイパン・ガラパン砂糖王公園の一角のお堂の正面において盛大に挙行されました。

丁度雨季にあたり、一日に何度かスコールがあったため天候が心配でしたが、仏天の加護のもと、たいした支障もなく円成出来ましたことは幸せでした。

南溟堂は、太平洋戦争中の激戦地サイパンで、また中部太平洋海域で戦没した人びとの慰霊のための六角堂で平成2年10月4日に落慶法要が営まれ、日米から約400名が参列して式典が行われました。

当時サイパン守備隊の主力は名古屋編成の第43師団で主に岐阜、愛知の出身者でした。

南溟堂の施工は亀山建設(岐阜県関市)にお願いし、また、当時岐阜県仏教会名誉会長であった故・谷耕月老師(美濃加茂市正眼寺)が募金に大変尽力いただきましたため、大導師に拝請いただきましたが、今



回は谷老師のお弟子の山川宗玄老師を導師をお願いいたしました。老師の香語は下記の通りです。

萬里南溟天未曙
波心残月為誰紅
安忘百億毛頭淚
惟二旬年爭施功
霧隱軒



式典ははじめに黙想、次に全員で三帰礼文をお唱えし、般若心経で本尊上供、導師香語の後、普門品偈の読経中に一般焼香、終わって南溟堂御詠歌をお唱えしました。法要の解説を長男弘隆が日英両語でいたしました。

その後、導師祝語、亀山建設社長祝辞、来賓祝辞(連邦政府厚生大臣、サイパン市長)、最後に発起人として謝辞を述べました。

終わって一人ひとり堂内に入り大梵鐘を撞き、平和への誓いを新たに式を閉じました。

最後に、この度の20周年を記念して宗像商会のお世話により前机、五具足、木蓮華一對、慈母観音、阿弥陀如来の光背を新調し、堂内を一新しました。

特集2 サイパン南溟堂20周年

サイパン南溟堂(国際礼拝堂)創立20周年記念法要に参加、随喜して

静岡県法幢寺住職 秋 田 弘 隆

サイパン南溟堂は、先の大戦中、サイパン島、中部太平洋海域で戦死した日米の戦士及び民間人の霊をお祀りする超宗派のお堂です。バンザイ岬、マッピー山にある雨ざらし、日ざらしの慰霊碑、塔婆を見かねて、せめて屋根のあるお堂でご供養したいと、師僧、秋田新隆老師(法幢寺東堂、南溟堂堂司)が發願してから、早いもので満20年が経過しました。この本格的木造建築の六角堂は、思いおこすに、本当に多くのの方々、特に岐阜県仏教会をはじめ、愛知、静岡の遺族の方々、ご寺院様のお力添えを頂き平成2年(1990年)に落慶され、5万5千人の彼我戦没者の供養、世界平和祈願としてガラパン、シュガー王公園内に建立されました。白ありと風速80mを超える台風に耐える設計、日本建築の粋を結集させたこのお堂も、20年の時を経てまわりの環境風景に馴染み、溶け込んできた。この20年の間には無住の時もあり、窓ガラスが壊され、内の仏具も盗まれ、いたずらされたりもしました。しかし、2年前に弊師がハワイ大正寺での10年間の国際布教師のつとめを終え、サイパンに移住して、堂守りを続けています。毎朝6時からお堂の内外の清掃をし、朝のお勤めの中で、彼我戦没者追悼の回向と世界平和を祈念しています。この20周年の節目に、今回仏具の修復を試み、前机、五具足を新たに奉納、本尊・慈母観音(マリア観音)の光背として三月堂天蓋を設置、脇仏の阿弥陀様のスプレーのいたずら書きを取り除き、ぬり直して、金箔を施す、折れた指の修復、梅花観音様の梅華も新たにお供えしました。仏師、仏具屋さんと作業中、1びきの蝶蝶が我々のまわりをずっと飛び回っていました。戦没者が喜びの舞をしてくれていたのだろう。本尊様も脇仏も新たな光背を得て、光輝くほど美しい。

平成22年10月23日に、創立20周年記念並びに平和の鐘安置15周

年記念法要が日本から120名、現地の方50名のご参加を頂き、しめやかに執り行われました。亡き谷耕月老師の後を山川宗玄老師(岐阜県美濃加茂市正眼僧堂堂頭)が志を引き継ぎ、今回快く導師をお勤め下さいました。開式とともにすぐに参加者全員で彼我戦没者のご冥福を祈り黙祷が行われ、引き続き本尊上供、そして香語、読経、詠讃歌奉詠、一般焼香、山川老師、亀山建設社長、サイパン市長からご挨拶を頂き、弊師の謝辞で法要を終りました。その後、参列者は、堂内の大梵鐘(平和の鐘)を心を込めてつき、御霊の安らかなることをお祈りし、平和への誓いを新たにしました。途中雨に降られるも、何万人もの汗と血と涙が随喜の涙となって、降り注いだのだろう。一般焼香の時にはすっかり止み、晴れ渡りました。

小生にとっては、20年前の落慶式、そして今回の創立20周年記念法要に随喜し、戦後生まれの世代の人間として、今の平和の基礎になってくださった何万人もの戦没者、そして南溟堂建立に関わった多くの人達の思い、志をしっかりと受け止め、引き継ぎ、未来につなげていくことの大切さを新たに心に誓う機会となりました。梅花観音番外霊場にもなっております。是非皆様も一度お参り下さい。

因みに、今年2月にサイパンを舞台とした映画が公開される。タイトルは「太平洋の奇跡ーフォックスと呼ばれた男」。サイパンの玉砕の命令伝達が届かず終戦をはさんで500日間を超えるゲリラ戦を続けた最後のサムライといわれた大場榮陸軍大尉の勇戦である。万余の米軍を翻弄し、神出鬼没の戦闘を指揮した大場大尉を、米軍はフォックス(狐)と呼び、その捕捉に躍りとなった。「敵ながら天晴」と米軍から敬意をもってその降伏を受け入れられた日本兵47名の隊長の大場榮大尉の戦い、生き様である。

「塔婆供養で植林支援」GNCと合同会議報告

2008年度よりグリーン・プランの実践として事業がスタートした「塔婆供養で植林支援」は、皆様のご理解ご協力のもと順調に推移しています。

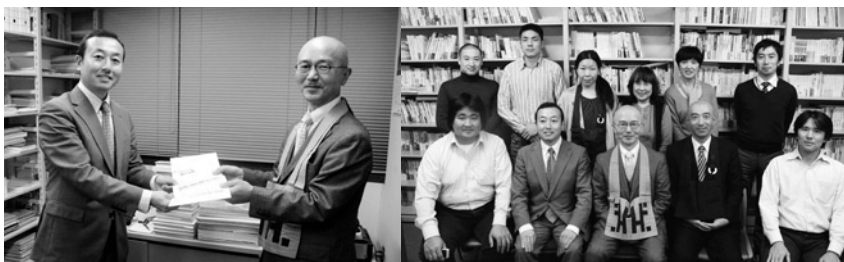
本年(2010)度に寄託いただいた植林支援金は苗木2万5千本分に達し、三年間の累計本数は7万5千本を数えました。

塔婆供養で植林支援の実績

寄託年	2008年寄託分	2009年寄託分	2010年寄託分
植林時期	2009年5～6月	2010年5月10日～5月20日	2011年5月予定
植林本数	25000本	25000本	約25000本
種類	ヨーロッパアカマツ (Pinus sylvestris) 2年生苗木	ヨーロッパアカマツ (Pinus sylvestris) 2年生苗木	ヨーロッパアカマツ (Pinus sylvestris) 2年生苗木
植林面積	SZI-GNC共存の森として10ha	SZI-GNC共存の森として10ha	SZI-GNC共存の森として
植林場所	モンゴル国セレンゲ県トジンナルス地区 シャーマル村	モンゴル国セレンゲ県チョロート周辺	<未定>
作業人数	ジャムスレン氏 (セレンゲ県森林調査センター長) オトゴンバット氏 (セレンゲ県森林調査センター職員) セレンゲ県スフバートル市の学生、村の住民 約100名他	ジャムスレン氏 (セレンゲ県森林調査センター長) オトゴンバット氏 (セレンゲ県森林調査センター職員) セレンゲ県スフバートル市の学生約60名他	備考 一般参加の植林ツアーを実施予定

12月13日、協働のモンゴルGNCより、ツォゴーさんとバットゾリグさんが来日されましたので、この機会にGNCとSZI合同会議が開催されました。

ツォゴーさんとバットゾリグさんは、植林事業のほかにウランバートル郊外のモデル農場で日本の農業技術を積極的に取り入れながら様々な試みを行っています。



GNC代表宮木いっぺい氏に支援金の寄託

GNCの皆さんとの集合写真

昨年寄託いただいた25,000本の苗木は、失いかけた森林を元の植生に戻す「共存の森づくりプロジェクト」としてモンゴル国セレンゲ県チョロート周辺に植林実施されています。

植林作業は、過去40年以上に亘り森林専門家として、モンゴル国内各地にアカマツなど3千万本の植樹を実践してきたセレンゲ県森林・動物センター長・ジャムスレン氏の陣頭指導により、地元の学生、村の住民が加わり実施されています。

特に今年は植林後の降雨が多かったため、元気に育っている苗木の写真とともに活着生育が順調という報告をいただきました。その後の懇親会では、元駒澤大学総長・大谷哲夫老師も参加され、建設的な意見交換が為されました。



「塔婆供養で植林支援」事業は、継続していくことが何よりも大事なことです。

今後とも会員皆様のご理解ご協力を何卒宜しくお願い致します。

懇親会にて

SZIの「塔婆供養で植林支援」は宗派によらず参加可能です。

苗木本数分×30円の植林支援金をSZI事務局へ振込んでいただくことにより、事務局よりポスター、植樹証明書、苗木本数分の通し番号付植林支援シールをお届けします。

各寺院様にはこのシールを卒塔婆に貼付し供養の施主に渡すなど活用くださればと思います。

郵便振込口座 00100-6-611195

SOTO禅インターナショナル

通信欄に「塔婆供養で植林支援」と明記ください。

詳細はパンフレットををご覧ください、SZI事務局までお問い合わせください。

国内インフォメーション

『ただ、ひたすらに』～平成22年度聖護寺国際公開安居レポート～

聖護寺国際公開安居講師 大谷 有 為 (東京都長泰寺副住職)

今年も恒例の国際公開安居が、熊本県菊池市班蛇口の聖護寺(住職・橋崎通元老師)で厳修された。期間は、平成22年6月1日から7月10日までの40日間であった。私は、今年度もこれまで同様、講師(通訳)として解制直前の数日間に参加させていただいた。

この聖護寺国際公開安居が設立されたのは平成4年(1992年)で、今回で、もう19回目を数える。道元禪師様の教えそのままに「清規」に則り、ただひたすらに坐る、そしてそれをここ聖護寺で実践し、海外の人たちにもその門を開くという国際公開安居設立当初の主旨は、19年という長い年月を経ても、一切ぶれることがない。海外からの参加者の数も、これまでの合計で100名をこえる。

今回、この国際公開安居に参加した外国人安居者は、合計4名(オーストラリア、アルゼンチン、ブラジル、ペルーから各一名ずつ)であった。それに、堂長、7名の役寮と講師陣、そして瑞應寺専門僧堂から聖護寺詰めの雲水3名でこの安居をサポートする。

外国人安居者の数は例年より少なかったが、そのぶん山内は落ち着いており、各安居者もじっくりと日々の行持に取り組んでいたようである。

行持においては、午前4時の覚眠、坐禅に始まり午後9時の開枕まで、例年通りの寸分狂わぬ如法な差定が組まれており、安居者は、ただひたすらにそして真摯に目の前の行持を黙々とこなしていく。

ここ数年、朝の「朝参」の時間に『正法眼蔵随聞記』を日本語と英語で読んでいた。安居者からの評判も良く、道元禪師様のお言葉が日々様々な角度から安居者の心と体に染み込んでいくのを感じる。

本年度の本講で使用されたテキストは、『学道用心集』(Points to watch in practicing the Way)であった。法益を受けた外国人参加者からの感

想の言葉は、「inspirational (刺激的)」そして「profound (意義深い)」というものであった。

また、オーストラリアからの安居者は、「この聖護寺で、日本の雲水とともに曹洞宗の由緒正しき伝統に触れられることは、外国人としてとても幸運である。自分のこれまでの日常生活がいかに怠惰なものであったかということを感じる。」と、感想を述べていた。

近年、聖護寺の国際公開安居の参加者には、欧州や北米からの参加者よりも、ブラジル、アルゼンチン、ペルーをはじめとする南米からの参加者が目立つ。

例えば、アルゼンチンの総人口は、現在約4千万人ほどであるが、その92%はキリスト教徒である。正式に認可された曹洞宗寺院はまだない。しかし、そのような状況下にあっても、曹洞宗宗侶は6人おり、そのうちの5人は僧侶になる以前に、聖護寺の国際公開安居に在家修行者として複数回参加している。彼らが、聖護寺で得た曹洞禅の真髓を自国に持ち帰り、それが原点となり着々と脈打ち、敷衍するであろう正伝の仏法の確たる息吹を感じずにはいられない。

平成22年の11月より、平成23年の1月までの3ヶ月の期間、宗立専門僧堂が聖護寺において開単される。前年度まではフランスで2回、米国で1回営弁され、今回は4回目となり国内では初めての開設となる。聖護寺が、その場所に選定されたのも来年に20回目を迎える国際公開安居の実績が少なからず評価されたからであろう。

ここ聖護寺で、正伝の仏法を外国人曹洞宗宗侶とともに行持する今回の宗立専門僧堂の修行が無事円成することを祈念するとともに、国際公開安居のさらなる発展と継続を願ってやまない。



SZI express

会費納入者・賛助金納入者名簿

2010年8月1日～2010年12月15日まで

ありがとうございました。
大切にさせていただきます。

■ 会費納入者ご芳名 2010/8/1～2010/12/15 (順不同・敬称略)

宮城県	大雄寺	
宮城県	津龍院	館寺昌晴
山形県	見竜寺	
群馬県	宗泉寺	柴山輝行
埼玉県	集福寺	松本文雄
埼玉県	宝持寺	
埼玉県	普濟寺	岡部雅明

東京都	龍沢寺	青木尚子
東京都	高西寺	関岡俊二
神奈川県	龍宝寺	梅田良光
神奈川県	長福寺	谷崎無奏
神奈川県	梅奈寺内	館盛寛行
神奈川県	珠泉院	
福井県	宗生寺	石塚良光
静岡県	延命寺	
静岡県	洞雲寺	糸柳格順
兵庫県	長命寺	西村英寿
長崎県	洞禅寺	中村覚道

■ 賛助金納入者ご芳名 2010/8/1～2010/12/15 (順不同・敬称略)

埼玉県	普濟寺	岡部雅明
静岡県	延命寺	

神奈川県	龍宝寺	梅田良光
神奈川県	大蔵寺	
静岡県	洞雲寺	糸柳格順

累計苗木 76,461本分

■ 塔婆供養で植林支援協賛者ご芳名 2010/8/1～2010/12/15 (順不同・敬称略)

宮城県	大雄寺	
埼玉県	普濟寺	岡部雅明
東京都	西照寺	嗣永典子
東京都		青木尚子

■ 助成金 大本山總持寺

■ 賛助金 曹洞宗宗務庁

動 静 報 告

2010/8/20～2010/12/15まで

8月23日	会報発送作業	事務局
9月4日	第12回ゆめ観音	大船観音寺
9月9日	役員会・編集委員会・審議委員会	檀信徒会館
11月8日	役員会・編集会議	檀信徒会館
11月11日	ゆめ観音感謝状	大船観音寺
11月22日	プラムヴィレッジ会談	大本山總持寺
12月13日	編集委員会・編集会議・GNC 合同会議	市ヶ谷

随時インターネットにて役員会を開催しております。

SZI ホームページ運営中

会報バックナンバー、過去の総会・講演会、
スタッフページなどもご覧いただけます。

SZIで検索!

SZI

検索

URL <http://soto-zen.net>

2011年 SOTO 禅インターナショナル 総会・講演会のお知らせ

- 開催日 2011年2月28日(月)
- 会場 東京グランドホテル
- 日程 13:30 総会 (3F 桜の間・会員のみ)
15:00 講演会 (3F 桜の間・どなたでも参加できます)

■演 題

「国際布教伝道史への提言」＜海外布教の古今東西＞

■講 師 廣澤寺住職 小笠原隆元師

17:00 懇親会 (3F 蘭の間)

▶ 総会はS Z I 会員のみですが、講演会はどなたでも参加歓迎いたします。

定 員／ 100名 会 費／ 無 料 (懇親会参加者は実費5,000円)

締 切／ 2011年2月15日(火)

【お申し込み方法】

一般参加希望は ご住所、氏名(参加者のお名前)、連絡先電話番号と「S Z I 講演会希望」と明記の上、

○ FAX の場合は 045-843-8864 まで

○ 葉書の場合は 〒233-0012 横浜市港南区上永谷5-1-3

SOTO 禅インターナショナル事務局 宛 にお送りください。

S Z I 会員のみなさまは会報に同封されている葉書にご記入の上、事務局まで御返信ください。

《開催報告》第12回 ゆめ観音アジアフェスティバル in 大船

2010年9月4日(土) 11:00 ~ 21:00

会 場／大船観音寺(神奈川県鎌倉市) 参加者数／約1,300人(スタッフ・関係者含む)

来場者は昨年より少ないものの、酷暑の中、事故や怪我病気なく無事に終了いたしました。また、2010年は現在の白衣観音像建立50年の節目にあたり、鎌倉市長はじめ神奈川県原爆被災者の会会長より記念のスピーチを頂いております。

ステージ・出店とも、過去最大人数が集まりました。地元神奈川のみならず、東京、千葉、静岡、埼玉、最も遠いところでは米国から、日本国内に在住する外国人僧侶と寺院関係者が自らステージに上がって表現することができたことが今年の大きな特徴です。今後も「つながる ひろがる アジアの ねがい」に倣い、各方面の事業へ糧をつないでいきたいと思っております。

CONTENTS

- ▶巻 頭 日系寺院史編纂への思い……………S Z I 相談役 福島 伸悦 1
- ▶特集1 ブラジルローランジャ佛心寺50周年
赤土と黄風舞う50年の魅力ーローランジャ洞光山佛心寺開山50周年記念ー ……ローランジャ仏心寺住職 黒澤 慈典 2
ブラジル ローランジャ佛心寺50周年に思うこと ……宮城県洞林寺住職 吉田 俊英 3
- ▶特集2 サイパン南溟堂20周年
サイパン南溟堂創立20周年慰霊法要報告 ……サイパン南溟堂住職 秋田 新隆 5
サイパン南溟堂(国際礼拝堂)創立20周年記念法要に参加、随喜して ……静岡県法幢寺住職 秋田 弘隆 5
- ▶「塔婆供養で植林支援」GNCと合同会議報告 …… 6
- ▶国内インフォメーション……………聖護寺国際公開安居講師 大谷 有為 7
- ▶SZI express 会費納入者・賛助金納入者名簿・動静報告 …… 7
- ▶2011年度 総会・講演会のご案内、《開催報告》第12回ゆめ観音アジアフェスティバル in 大船 …… 8